

2024年度 春日エリア合同クラス連絡会

議事録

2024年7月22日

作成: 橘田 関

概要	2
開会	3
議題1: クラ代主催のイベントについて	4
議題2: 学生生活アンケート	4
議題3: 知識情報・図書館学類開設授業についてのアンケート	6
a. 1年次の情報リテラシーについて	6
c. 1年次のファーストイヤーセミナー、2年次のアカデミックスキルズについて	8
d. その他	8
議題4: 情報メディア創成学類開設授業についてのアンケート	9
a. 反転授業について	9
b. 学問への誘いについて	10
議題5: のぼりに関して	10

意見
閉会

10
10

概要

開催日時

2023年7月22日 18時30分～19時40分

開催場所

7B310(大会議室)

参加者(敬称略・順序不同):

知識情報・図書館学類

小野 隼士(議長)

総務・生活局

吉岡 秀人(局長)

知識教育局

関 智亮

橘田 真優

情報メディア創成学類

山田 美浩(議長)

教職員

図書館情報メディア系

知識情報・図書館学類

鈴木 伸崇(学類長), 大庭 一郎(進路相談), 阪口 哲男, 高久 雅生, 吉田 右子, 小泉公乃, 金 宣経, 小野 永貴, 白井 哲哉

情報メディア創成学類

三末 和男(学類長), 金森 由博(カリキュラム委員長), 木村 成伴, 中井 央, 森継 修一, 金 尚泰

図書館情報エリア支援室

出口 圭

編集注: 議事録中の発言者については、不正確な可能性があります。

す。

全体進行

小野(知識議長)

開会

小野: お集まりいただき感謝する。

議事録の記録とレコーディングをさせていただく。

資料の公開が遅くなり申し訳ない。資料はteams及びGoogleDriveで公開している。

簡略版議事録はHP公開を予定している。

進行は代表して小野が行う。

(学生側自己紹介)

(教員側自己紹介)

議題1：クラ代主催のイベントについて

(クラ代主催のイベントが春学期に開催された。4つのイベントに関して概ね成功といえる。履修登録会の開催時期のみ検討が必要である。)

小野: 春日地区クラ代として主催した4つのイベントについての報告から。

履修登録会合同を2回開催。1年生にtwins、manaba、シラバスなどの各種機能の説明、履修についての質疑応答を行なった。1回目では100名以上の参加者がいた。好評。2回目は事前登録科目の登録期間後であったため、15人程度が参加。来年度は期間内に行ないたい。

宿舎入居支援を行なった。全代会主催の入居支援を手伝う。クラ代以外からもサポートがあった。支援だけでなく大学についての説明質問も。

(以降知識のみの開催)

新入生歓迎会を開催。同じ学類の中での関わりが少ないのでは、という疑問から、仲良くなるきっかけづくりに。好評である様子。

移行生交流会を開催。移行生と既存の知識生の交流が少ないことから、知識によりなじめるように。グループワークを主体に、履修を教え合った。知識、移行生が半分ずつ40、50人ほどが参加。

議題2：学生生活アンケート

(食堂に関してこれ以上の改善を求めることは難しい。追加調査を実施し、食堂側への具体的な要望を伝える資料を用意する。)

春日エリアの環境に関しては支援室で対応してくださっている。雑草の対応には費用の問題がある。

オフィスマについては交渉の余地あり。詳しい資料が必要である。

書籍部に関しては医学エリアを利用するように周知する。)

小野: [別紙資料1]生活環境アンケートの報告を行なう。

後に、アンケート結果から2点を議題として取り上げる。
学食等の福利厚生について。美味しいという意見もあるが、本学の学食と比べ劣ってしまっている。キッチンカー、パンの販売があってもよいのではないか。食堂以外の選択肢があってもよいのではないか。

春日エリアの環境に関して。新歓のビラが散乱している。新歓委員に掛け合い、クラ代の方で対応済み。

雑草が多いという意見が多い。環境に関して改善を要求したい。

ウェルビーイングルームについては好評が多い。統計情報はなし。

別紙資料1について意見・質問はあるか。

大庭: 食堂に関して。打つ手がない。採算が合わないため、要望の実現は困難。

一方、かすみの無人販売(以降オフィスマと記載)が好評なのであれば、増強を検討すべき。

雑草の問題に関して。草刈りのための費用を捻出するより、教育、図書館、入試に費用を回したい。業者以外でも支援室の方が協力してくださっている。

春日エリアから徒歩10分ほどに医学エリアの書籍部がある。周知してほしい。

出口: 大庭の補足として。食堂に関しては厳しい。

今週中(2024/07/26ごろ)には完了予定。宿舍までは手が回っていない状態である。

阪口: アンケートの形態について。

「利用しない人がなぜ利用しないのか」、「なぜ、週に1回しか利用しないのか」、など分析のしやすい形態に変えるべき。学生側が食堂に交渉する際にも活用しにくいのではないかと。個人が特定できるものにまでする必要はないが。

新紙幣、硬貨に対応した券売機の導入も費用の問題から難しいだろう。

出口: 支援室から追加。新歓のビラは支援室で撤去済み。

小野: クラ代側の調査不足。クラ代で追加調査を実施予定。食堂以外でも

1点質問。オフィスマに冷蔵品や日持ちのしないものなどを充実させることは現実的に可能なのか。

大庭: 利用が多いため、支援室を通して交渉の余地はある。

電力使用量はエリアごとに厳しくチェックされている。(冷蔵庫を置くことは厳しい)

防犯セキュリティの問題や売り上げの採算がとれるかの問題がある。

一日に何度も商品の補充を行なっている。(日持ちのしないものも置ける可能性あり)

院生、教員共に利用しており、電子マネー決済の仕組みは画期的。

具体的に、何が欲しいかを明確にする必要がある。

(オフィスマの充実は)食堂を潰してしまう選択になるかもしれない。

出口: 電気代の問題は何度かカスミと交渉済み。

大学側はカスミに設置場所の電気代の負担を求めている。カスミ側はビジネススタイルとして電気代を施設側が持つことにしている。どちらかが折れなければ、冷蔵販売は難しい。

売り上げ状況から交渉の余地はある。継続して努力する。

大庭:カスミとの交渉の際に冷蔵庫の設置面積分を指定管理にし、指定管理分は業者が持つというロジックを用いるのもありなのではないか。経営的な面から見ると、別の業者を入れることを匂わせ、交渉するのも1つの手。

キッチンカーは以前来ていただいたことはあるが、売上がよくなかったため、撤退した。

小野:カスミとの交渉に関しては、学生では厳しい。学生側として意見を発信する機会は重要。支援室を含め協力を求めることがあるかもしれない。

大庭:もう一つの業者と競わせ、勝った方に経営させればよいのでは。

出口:去年のクラ代実施のオフィスマのアンケートカスミとの交渉の際に利用した。

小野:我々の意見が様々なところで反映されていることがわかった。

一概に生活アンケートという括りだけでなく、食堂、キッチンカー、オフィスマに関することをいろんな選択肢を提示した上で、春日エリアの環境がよくなる取り組みに努めたい。支援室や教員の方々にも協力をお願いしたい。

学生から意見が多く出ているため、やる気のある学生は多い。学生が美化に取り組める環境を作りたい。もちろん無償の労働を求めるつもりはない。

大庭:草刈りボランティアによって熱中症で倒れ、救急車を呼ぶ事態になるのは困る。除草剤をまくのは避けたい。

小野:承知した。

議事録で以上の意見について記録、反映したい。

医学書籍部については知らない学生が多いだろう。周知したい。

議題3: 知識情報・図書館学類開設授業についてのアンケート

a. 1年次の情報リテラシーについて

小野:次に知識教育局から

別資料2,3,4が知識の授業に関して。2が1年生、3が2年生、4が3年生のアンケート結

果。今年から3年生向けのアンケートを実施した。知識の授業は3、4年生向けの授業がメインであるため、数も多い。そこに対する意見も必要ではないか、という意見が出たためアンケートを実施した。アンケート結果から2点取り上げる。1年生の情報リテラシー講義に関して。去年(2023年)の議題にも上がったが、他の学類と比べ不公平ではないか、という意見が散見される。

一年生は詳しく説明を。

関: 知識は小テスト5割、期末テスト5割。他学類では評価方式が様々ある。
全学の必修科目ならば評価の方式に関しても全学で統一させるべきでは。

小野: 学類の先生方に全学の授業について回答いただくのは厳しいと思うが、回答をいただきたい。

三末: 基本的に内容は統一。推進室としては標準教材を提供する。学類によって情報に対する興味関心は差があるため、カスタマイズするようにお願いしている。
評価方法が変わるとどのような不公平感を感じているのか。

関: 期末試験に関して。
他学類との実施方法の差があるのに不公平さを感じている。授業に対する重さ

小野: 学生のエゴ。他学類との授業の重さが違うということ。学生のわがままではある。

三末: そのあたりの統一に関して、関わってきた。
学類が複数のクラスに分かれる場合がある。そのような場合では推進室としても評価方法の統一を求めている。授業を担当する先生方の考えを尊重したい。
楽して単位を取りたいという意図が感じられるが、それはしないのか。

関: 事前学習や持ち込みを通してより深い学びができればよいと考えている。

三末: 完全に評価方法をそろえることはむずかしい。
もっと深い学びを評価してほしいということか。

関: 評価方法で学びの深さの方向性が変わってくる。

三末: 深い学びを評価するためには、動画を見て小テストが解ける以上にそれぞれが調べるような発展的な課題を出すということだ。もし、その要望があるようなら推進室に伝える。

関: 深い学びとは自主学習で学んだ内容をより評価するということでしょうか。

三末: そうだ。

関: その方向ではない。(深い学びの意図することは違う)動画の内容の理解度の深さに関して期末テストで問うてほしい。

三末: この話題はここまでで。要望としてあるようなら、意見をまとめてほしい。

b. 3年次の専門英語について

小野:学類ごとに評価方法などが違っていることは学生に周知したい。

別紙資料4 3年生向けのアンケート結果より、FD会でございました。専門英語の授業にてフリーライドが起きているのでどうかして欲しい。グループワークの課題の中で一人がこなせばよいものがあり、何もやらない者が出てくる。グループでの評価のため、同じ評価がついてしまうため、不平等ではないか。改善を求める。以前(FD会)にて
教 育課程グループの先生に周知済み。

高久:専門英語に関しては確認済み。

グループワークそのものが授業を通して育てたい要素である。
先生にも話をしたが、十分なディスカッションを行なうことや能力別のグループを作成することは時間の問題上難しい。フリーライドは学生の問題でもある。起きないように学生同士
こ で の議論をお願いしたい。

小野:我々としても意識的な部分に問題があると思われる。

先生方にも配慮をお願いしたい。
学生が不満を伝えるということも授業の一環。
3年生への周知を図りたい。

c. 1年次のファーストイヤーセミナー、2年次のアカデミックスキルズについて

大庭:1年生のファーストイヤーセミナーに関しての筑波大学正式の回答として。

他学類の行なっていること(全学の要件に満たしていないもの)は不適切なものである。学長副学長に報告すべきではないか。
対面で行うことには意義がある。クラスの者が集まることに隠れたカリキュラムの要素がある。しっかり学んでほしい。

2年生のアカデミックスキルズに関して。
ファーストイヤーセミナーではレポートライティングは教えないことになっている。
(移行生向け)春ABのアカデミックスキルズでは、一年生のファーストイヤーセミナーで行なっていないことを2年生で行なう必要があるため、11コマになってしまう。来年度からは10コマになる予定。

小野:学生側への周知を行なう。

d. その他

阪口:3年生のアンケート結果より。研究室のエアコンのカビについては生活アンケートに記載すべきでは。
エアコンのフィルター掃除をどのような周期で行なっているか説明できる方はいるか。

出口:把握していない。おそらく行なっていない。
エアコンのフィルター掃除は行なっていないところも多い。

阪口: 普段から要望を伝えるべき。(アンケート結果を)もっとわかりやすくしてほしい。
業者では費用がかかるため、どれくらいの周期になるか分からない。

小野: 生活環境アンケートの方でも意見が出ていたにもかかわらず拾えていなかった。
支援室で対応をお願いしたい。
ファーストイヤーセミナーで交流が欲しいという意見については、授業は学問を学ぶ場所。
クラ代側がする(カバー)べきかもしれない。

議題4: 情報メディア創成学類開設授業についてのアンケート

山田: 次に創成から

本資料では別紙資料5、6とあるが7を追加した。GoogleDriveまたはteamsのファイルを参照して欲しい。
別紙資料5は1年次のアンケート結果。アンケートの回答方法上5段階評価でコメントがない。
1年次のものに関する質問はあるか。
2年次について。
別紙資料6は総評、7が具体的なアンケート結果。
全体的にレポートの難易度と講義形態に関するコメントが多い。
テスト、レポートで扱う範囲やレベルの高低について。講義形態では反転講義、先生の出席の取り方について。講義ごとの詳細に関しても同様である。
コメントがないものに関しては不満がないと見なす。

金森: 別紙資料5より、評価がよい教科については問題がないが、評価に偏りがあるものは理由は何か。

山田: 今後原因をまとめ報告する。

a. 反転授業について

金森: 2年生の授業に関して。反転授業に関する悪いコメントが目に入るがよいコメントはないのか。悪い面が目立つようなら、担当の先生に掛け合う。

山田: 自分が授業を受けていて特に問題はない。
微分積分の授業では、反転授業が複数回ある。反転授業は再度理解ができ、よい面がある。一方で、ある週では負担が重くなってしまうこともある。
統計の授業では授業を通して一人1回発表する必要がある。最初の週に発表した人と最後の週に発表する人では負担は違う。

b. 学問への誘いについて

大庭: 学問への誘いについて。

枠組みのみの開設で実施側のミス。

もっと中身の設計を行なうべき。動画の視聴期間、課題の提出期限を短く設定し、緊張感をもって取り組ませるべき。

橘田: 阪口先生の方から提出に関してのアナウンスがあった。

大庭: 自己管理できる人はオンデマンド型でもよいが、1, 2年次ではきっちり管理した方がよいのではないか。

小野: 誘いについては全代会にもあげる。

山田: メディア創成学類の授業評価アンケートを終える。

議題5: のぼりに関して

小野: のぼりに関して。

入学式後にのぼりで新入生を歓迎する慣行があるが、知識創成ではのぼりがなく実行できなかった。

お礼

意見

大庭: 可能なら当日の13時30分くらいまでに支援室に連絡し、UTOSで管理した方がよいのは。作成した資料は準公的文書にあたるとされる。

閉会

小野: 以上で閉会

